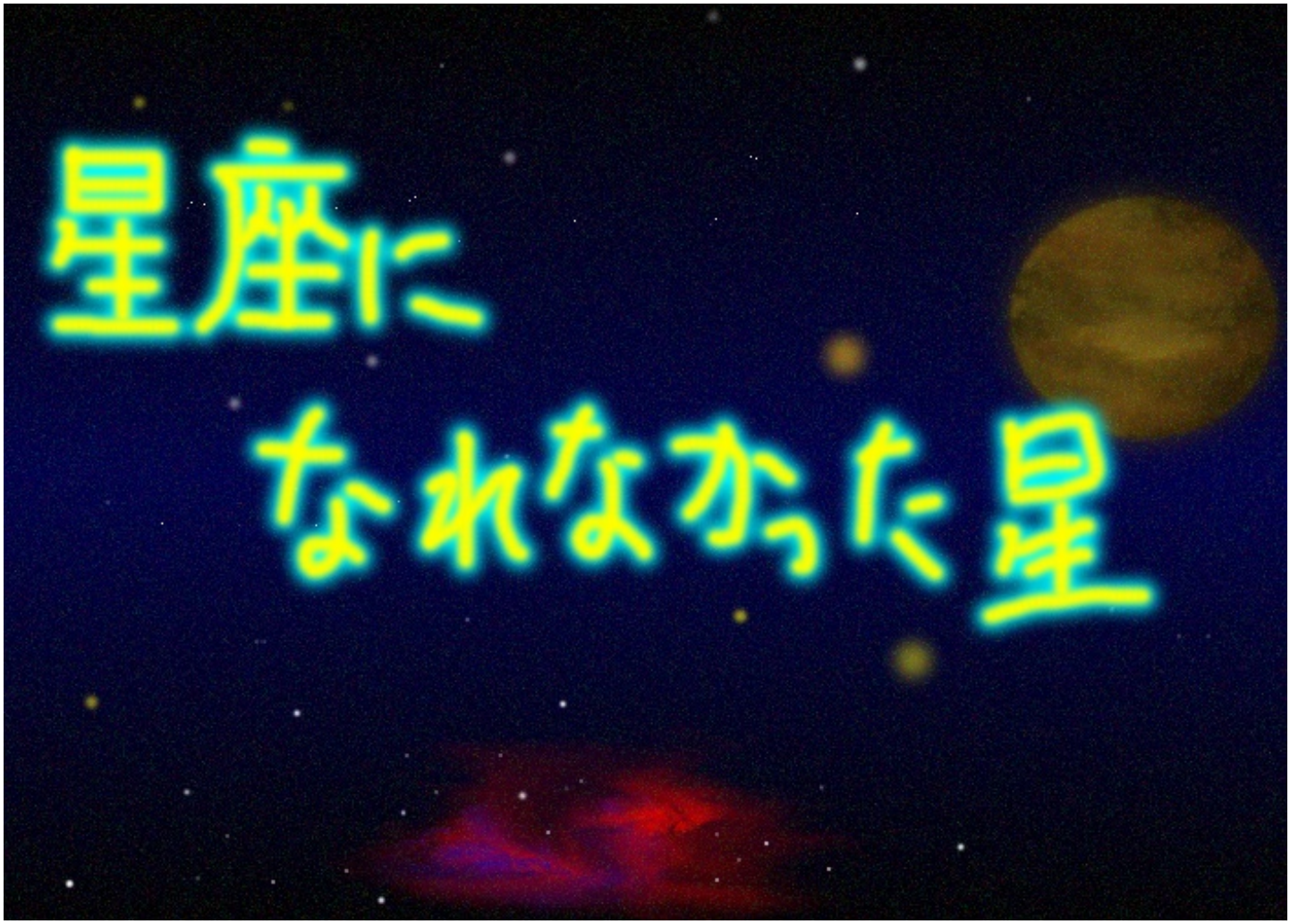
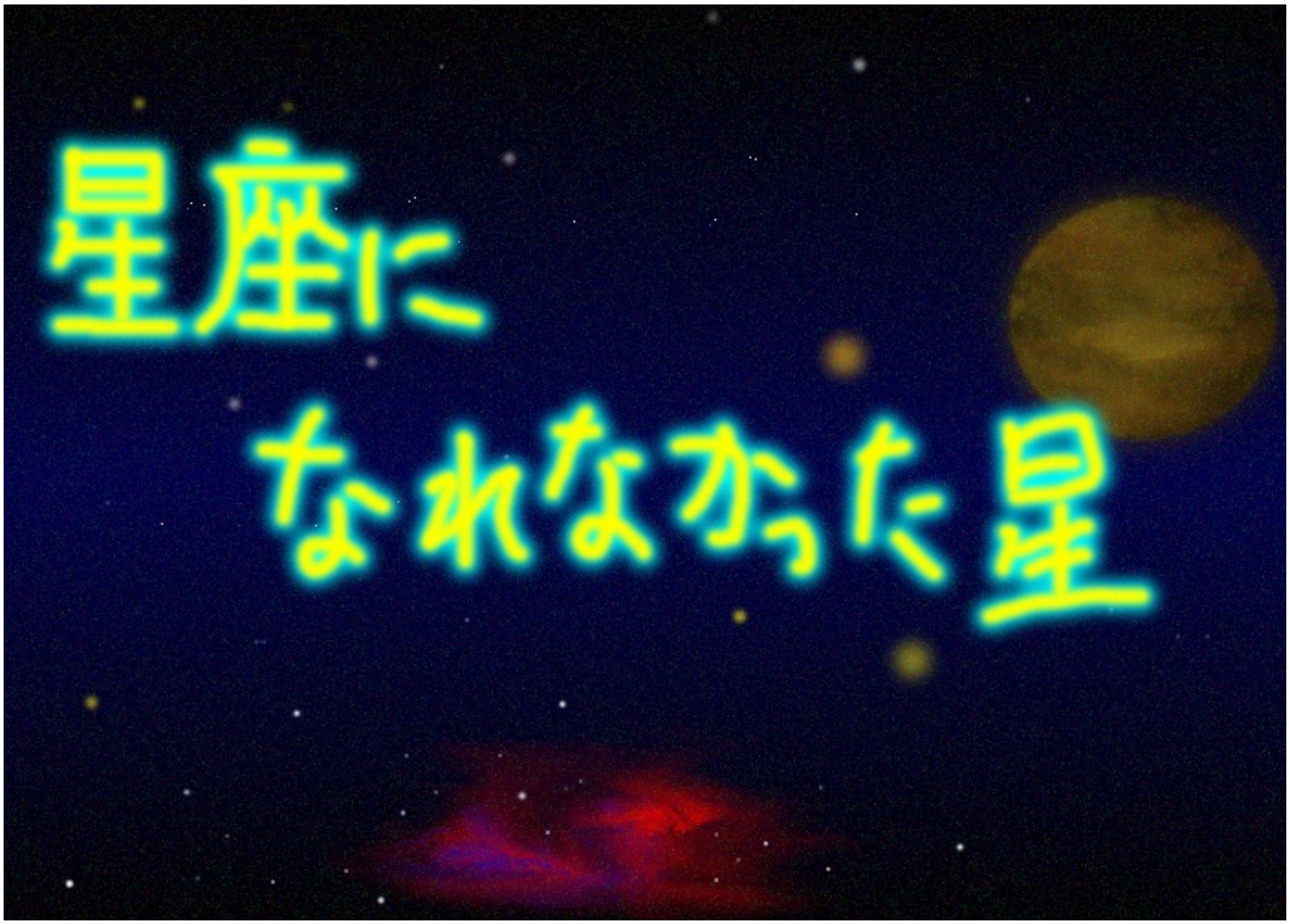

星座に
なれなかった星

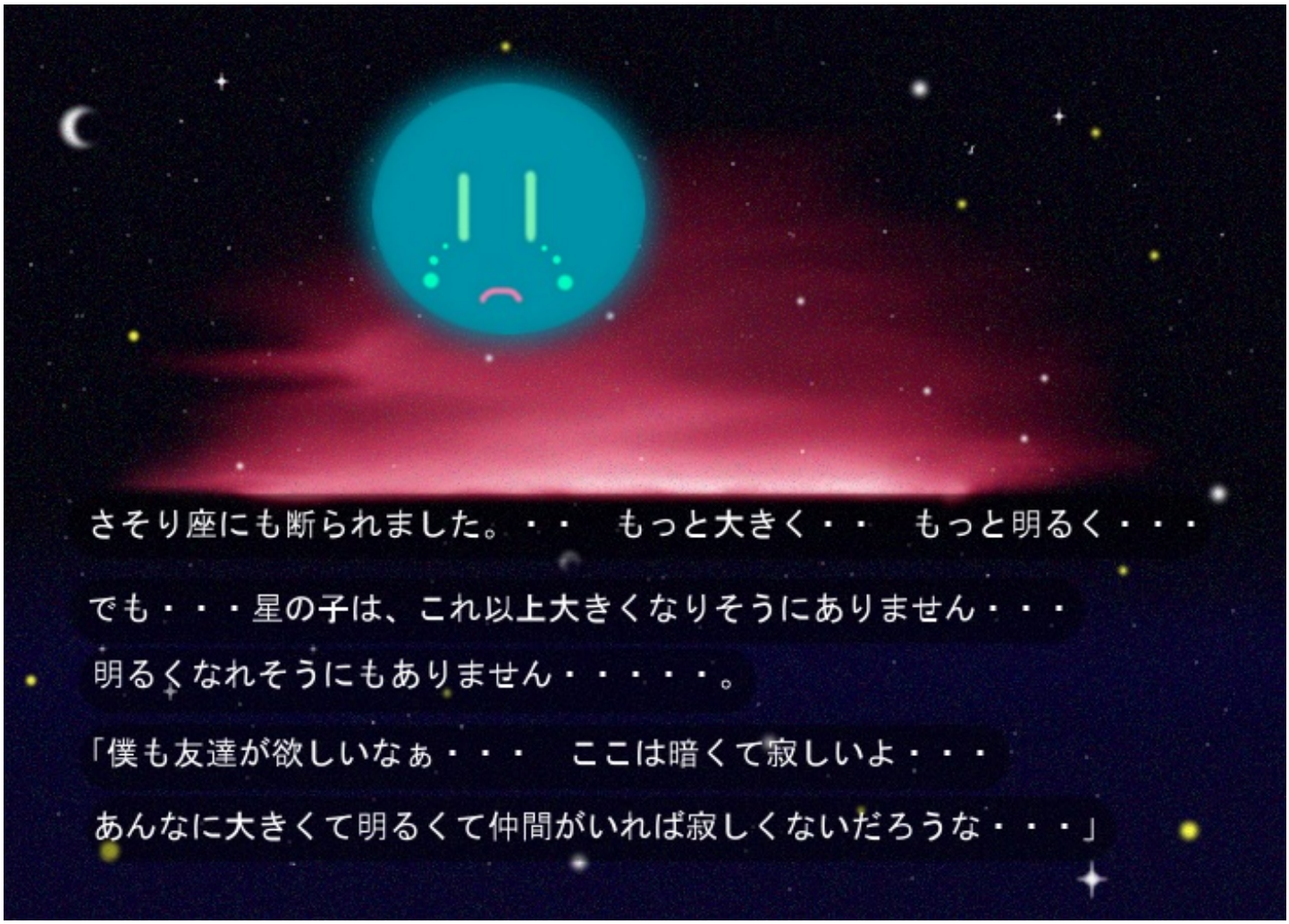

星座に
なれなかった星

夜空を彩る沢山の星座達
真っ暗な宇宙で綺麗に光り輝く
星座達は仲間もいて楽しそうです。
でも・・・
その星座になれなかった星もいました。
生まれたばかりの星の子は
広い宇宙に一人ぼっちだったので
寂しい思いをしていました。
星座になれば仲間もいて
寂しくないだろうと思った星の子は
星座達に聞いてみる事にしました。

星の子は、かに座の星達に話かけてみました。
「ねぇ・・かに座さん、僕も君達の星座に入れてくれない？一人ぼっちで寂しいんだ」
かに座の星達は答えました。
「駄目だよ・・　君が入ると形が変わっちゃうから・・・　ゴメンね」

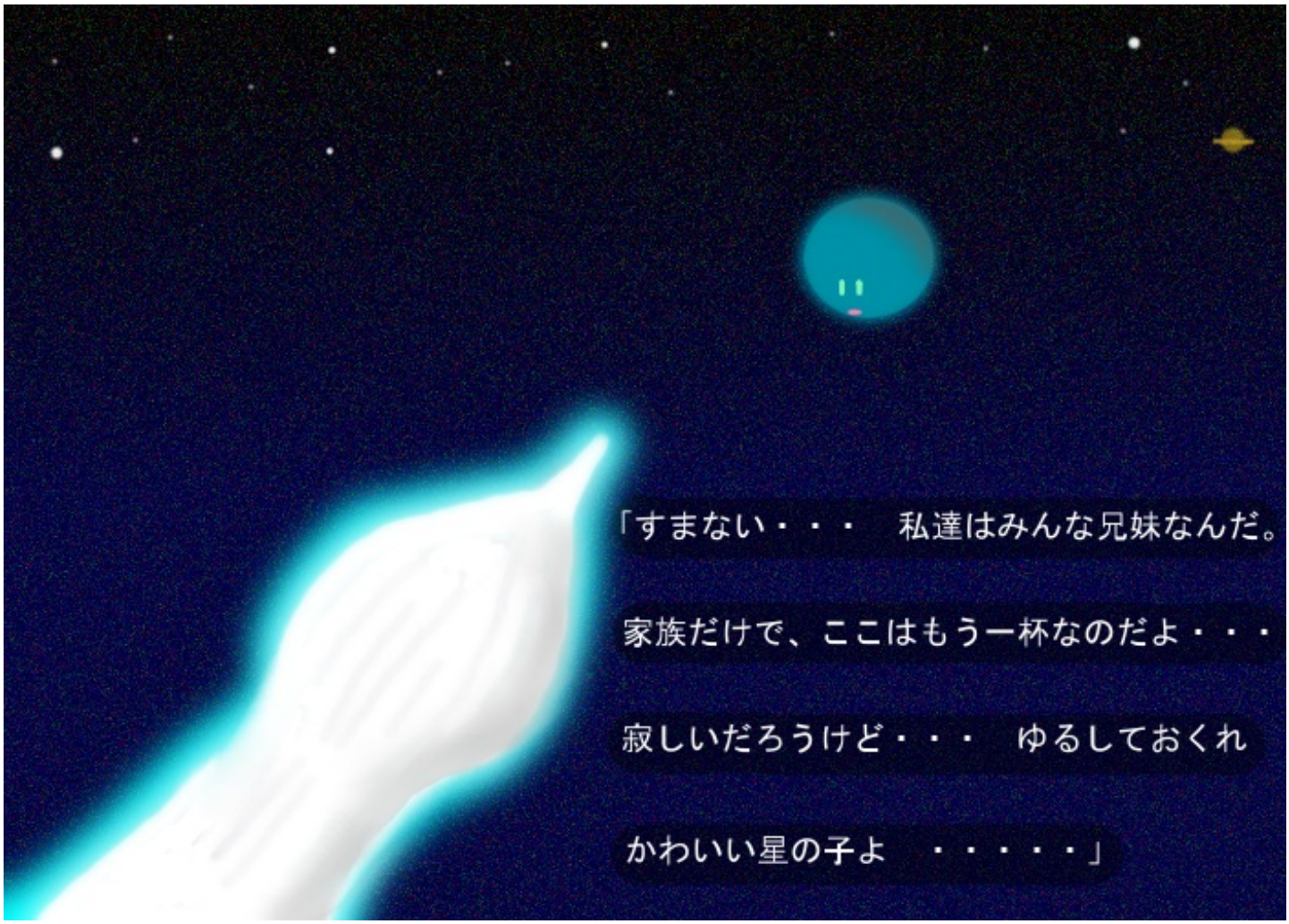
断られたけど、星の子は諦めきれず今度は、さそり座の星達に聞いてみました。
「ねぇ、ねぇ、さそり座さん。僕、君達の星座に入っちゃダメ？
星座の形が変わらないよう、目立たない様にするからさ・・・」
さそり座の星達は答えました。

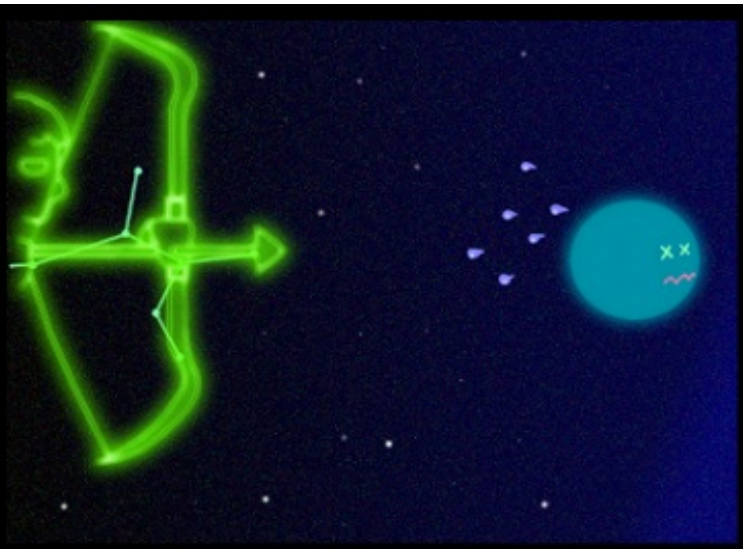
「う～ん・・　君みたいに、小さくて暗い光りだと
仲間に迷惑がかかるからね・・・ ほら、見てみな・・・
僕達みんな明るく光り輝いているだろ？　・・・　そうだな　・・・
もっと大きくなって、明るくなったら仲間に相談してあげるよ」


さそり座にも断られました。・・　もっと大きく・・　もっと明るく・・・
でも・・・星の子は、これ以上大きくなりそうにありません・・・
明るくなれそうにもありません・・・・・。
「僕も友達が欲しいなぁ・・・　ここは暗くて寂しいよ・・・
あんなに大きくて明るくて仲間がいれば寂しくないだろうな・・・」

やっぱり星座になる事を諦めきれない星の子
すると向こうに、ひと際明るく綺麗で美しい星座がいました。
それは、白鳥座でした。
白鳥座はとても綺麗で神々しく、話しかけづらかったけど、
星の子は勇気を振り絞って、話しかけてみました。

「あの・・白鳥座さん・・・　もし良かったら・・僕も仲間に入れてくれませんか？
あなた達のように、美しい星座になりたいのです・・・」
白鳥座は星の子を見下ろすと、ゆっくりと優しく話しはじめました。


「すまない・・・　私達はみんな兄妹なんだ。
家族だけで、ここはもう一杯なのだよ・・・
寂しいだろうけど・・・　ゆるしておくれ
かわいい星の子よ　・・・・・」



白鳥座は優しかったけど、やっぱり星の子は断られ

今度も星座になれませんでした。

諦めきれない星の子は、色んな星座に聞いて回ります。

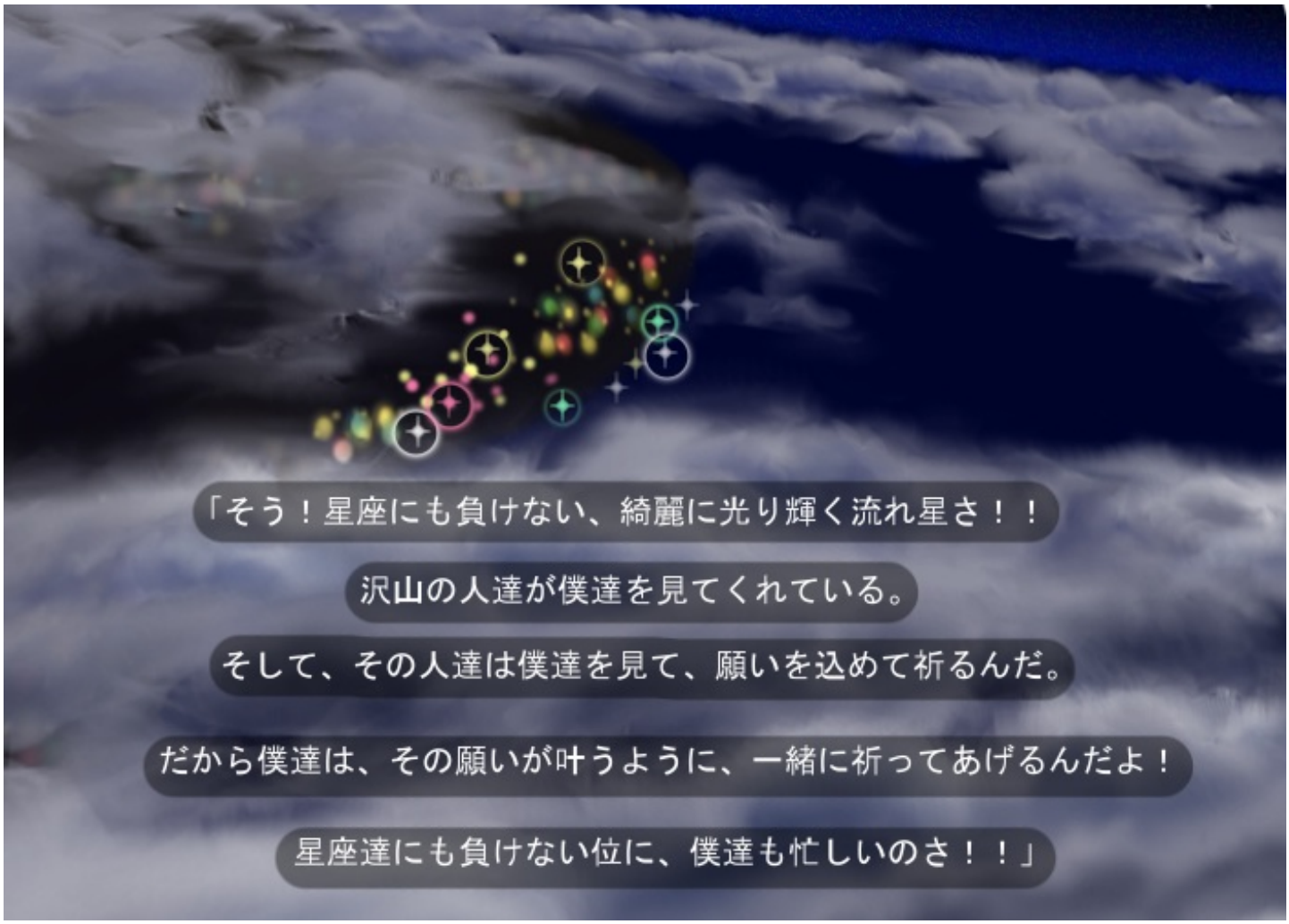
・・　でも、結果は同じ。　　みんなに断られました。

真っ暗な中、一人ぼっちで
また、寂しくなってきた星の子。
?
でもその時、一人ぼっちの星の子に、話かけてきた者がいました。
「どうしたの？」

声をかけてきたのは、綺麗に黄色の光りを放つ星でした。
星の子は今までの出来事を黄色の星に話してみました・・・・・
すると黄色の星はニコッと微笑み言いました。
「確かに星座達は綺麗だね。でもね・・・
僕達にも、僕達だけにしか出来ない事があるんだよ」
そういうと、黄色の星は星の子を連れて走り出しました。

星の子の目の前には、大きな青く輝く星がありました。
「さぁ！　二人でこの星の上を走り抜けよう！！」
星の子達は猛スピードで、青い星の上を走りました。

「星の子さん！僕達は今、流れ星になったんだよ！！」
「流れ星！？」


「そう！星座にも負けない、綺麗に光り輝く流れ星さ！！
沢山の人達が僕達を見てくれている。
そして、その人達は僕達を見て、願いを込めて祈るんだ。
だから僕達は、その願いが叶うように、一緒に祈ってあげるんだよ！
星座達にも負けない位に、僕達も忙しいのさ！！」

すると、星の子達の周りに沢山の色鮮やかな星達が集まって来ました。
「ほら、仲間達がやって来たよ！！」
「わぁぁぁ・・・　本当だぁ！！！」

「さぁ・・・　今日はパーティーだ！！！」
おちまい